

第3期 堺市北区政策会議 第2回 会議録

日 時：令和7年10月20日（月）15時から16時54分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：

【構成員】（敬称略）伊藤嘉余子、今野裕光、小川愛理、加我宏之、坂江祥衣、辻 美代子、
中田萌々果、野田誠子、紅谷昇平、増田紀夫、水野雅司（以上11名出席）

【事務局】鈴木敏文（区長）、原田明美（副区長）、市川行則（北区役所部理事 区域活性化調整担当）、辻本多美子（北保健福祉総合センター所長）、花田智夫（新金岡地区活性化推進室長）、曾根勝（自治推進課長）、宮田大志（子育て支援課長）、藤井裕子（北保健センター所長）、廣田 光（市民課長）、水野 正徳（保険年金課長）、村田博史（生活援護課長）、至田義朋（地域福祉課長）、樋口年秋（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、藤本浩一（堺市社会福祉協議会北区事務所地域活動推進係長）、本池茂（企画総務課長）、光斎かおり（企画総務課総括参事役 区政推進・人材育成担当）、辻林伸浩（企画総務課課長補佐）、鳴海祐哉（企画総務課企画係長）、佐藤裕子（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数0人

1 開会

2 区長あいさつ

○鈴木区長 皆様、こんにちは。北区長、鈴木でございます。

今日はお忙しい中お時間をとっていただき、このように皆様に参加いただきまして誠にありがとうございます。

皆様、ご承知のとおり「北区みんなのまちビジョン」に関しましては、将来像の「いろんな『たのしい』でつながる街 北区」の実現に向けまして、3つの基本方針、魅力、子育て、防災に関して、皆様にこれまでいろんな議論をいただきました。その議論に基づきまして、施策の推進、改善等を今まで行ってきたわけでございます。また、今のビジョンの計画期間が令和8年3月をもって終わるということで、今日もメインの議題になりますが、先日お見せしました新ビジョンの骨子案に基づきまして、今日は計画案を皆さんにもう一度見ていただいて内容を議論していただきたいと思っております。

この北区「はっぴー・すまいる」ビジョンですが、こちらは、4つの基本方針、今まで安全・安心、子育て、魅力だけでしたが、そこに健康を追加し4つの基本方針で進めたいと思っております。

区民の皆様には、住みたい、住み続けたいと思っていただけるようにどのように取組を進めればいいのかというところを考え、特に今回はビジョンを見られた区民の皆様がどう思うか、また分かりやすいかというところに大きく視点を置き、将来のまちの姿のイラストや4コマ漫画などを挿入しようかと考えております。

特に、そのイラストの部分に関しましては、市民参加によるビジョンをつくり上げていくことも考え、魅力発信の部分で、広報紙の子育て体験談の4コマ漫画を描いてくれています北区の住民の田中さんに依頼をして4コマ漫画を描いていただいています。

詳細は担当から、説明をさせていただきますので、活発なご意見をいただきたいと思います。

簡単でございますが、開会に当たりまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議報告

「事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告」

4 議事

○加我座長 それでは、第3期第2回目の北区政策会議を進めてまいります。案件の1つ目です。先ほど区長からもございましたが、次期ビジョン計画案について、その後、今年度の新たな取組の進捗状況をご報告いただいて意見交換ということになりますが、まずは次期ビジョン計画案について、資料を事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（鳴海企画係長） 前回の会議でご意見を頂戴いたしました今回の参考資料につけております参考資料2、次期ビジョン骨子案を基に、区民意識調査の結果などやこれまでの各種施策の取組状況などを踏まえまして、今回計画案を作成しました。

資料1（仮称）北区「はっぴー・すまいる」ビジョン（案）に沿って、改善点や作成に当たり意識したポイントを中心に概要を説明していきたいと思います。

本編の説明に入る前に、ビジョンの大まかな概要としましては、参考資料2の次期ビジョン骨子案にも記載のとおり、名称は、北区「はっぴー・すまいる」ビジョン。計画期間は、令和8年4月から令和13年3月までの5年間としています。

基本理念は、「みんなが住みたい・住み続けたい北区」。将来像は「『たのしい』でつながる北区～『たのしい』が生み出す『はっぴー』と『すまいる』」としています。

また、将来像実現のためには、北区の特性を生かしながら、区民みんなの力が緩やかにつながることで区民協働による地域共創を推進することがポイントになります。

それでは、冊子の最初の目次をご参照ください。

ビジョンの構成は、策定の趣旨、社会情勢を説明いたしました「Ⅰ このビジョンについて」、北区の概要、魅力、特性と課題を説明した「Ⅱ 北区ってこんなところ」、将来像について説明した「Ⅲ 将来像のイメージ図 みんなで描くこれからの北区」、将来像を実現するためにどのようなことを意識すればよいかをさくせんに沿って示した「Ⅳ みんなで取り組む3つのさくせん」、区民と区役所が一緒に進めていくべき方向性を基本方針としてまとめた「Ⅴ みんなで進める4つの『はっぴー・すまいる』」、最後に「Ⅵ 実施体制」となっております。

それでは、1ページをご参照ください。

ここでは、中段2の策定の趣旨について説明します。

これまで、現ビジョンに基づき、地域共創に向けた様々な取組を実施してきましたが、さらなる課題の解決や新たな価値の創造に向けて、引き続き取り組む必要があります。

基本理念にある「みんなが住みたい・住み続けたい北区」の実現には、区民同士が相互につながり、区民それぞれが「たのしい」と前向きに感じることを増やし、将来への希望を持ち、幸せを実感・共感できることが大切です。また、区役所は、様々な立場の方の課題に向き合い、寄り添い、みんなが安心できる環境をつくることが重要です。そこで、地域共創をさらに推進するための取組について説明し、それらを着実に実施することで将来像である「たのしい」でつながる北区を目指すこととしています。

2ページの社会情勢のページでは、物価高騰や特殊詐欺被害、デジタル・デバイドに関することを今回新たに記載しています。

次の3ページ、4ページをご参照ください。

北区の概要について説明します。まず、位置と地勢では、現ビジョンに掲載の内容に加えまして、4ページの下段で、中百舌鳥駅周辺、新金岡地区や金岡地区における取組状況などを紹介しています。

次の5ページ、6ページの歴史・資源では、地図上の位置が分かりやすいよう記載方法を変更しました。さらに、北区公式Instagramで投稿のあった写真を掲載しています。

次の7ページ、8ページの魅力のページでは、それぞれの項目により興味・関心を持ってもらえるよう、トレーディングカードに見立ててポイントを掲載しています。

次の、9ページからは、本編の附属資料にあります北区に関する統計データなどに基づきまして、北区の特性と課題をまとめています。特性には、自転車の利用環境満足度、課題には、住民同士のつながりの希薄化、健康への関心の高まり、新金岡地区の活性化の項目を新たに追加し、11ページの下段には、新金岡地区における取組を将来のイメージ図と一緒に掲載しています。

次の13ページ、14ページでは、北区の将来像のイメージ図を新たに挿入予定です。イメージ図には、北区の魅力や地域で活動する人々の様子も盛り込み、その中で楽しく暮らす姿を想像し、住みたい・住み続けたいと思っただけよう、工夫したいと考えています。

15ページ、16ページでは、北区の将来像について説明しています。将来像は、現ビジョンから引継ぎ簡潔化しまして、『『たのしい』でつながる北区』『たのしい』が生まれ出す『はっぴー』と『すまいる』』とし、「たのしい」と感じることでできる緩やかで心地よいつながりを広げることで、地域共創を推進します。

また、②将来像への想いとしましては、区民の新たな一歩によって、「たのしい」の輪が生まれ、「はっぴー（幸せ）」、「すまいる（笑顔）」があふれることを目指します。

17ページからのさくせんについて説明します。

将来像を実現するために、どのようなことを意識すればよいかをさくせんに沿ってその道筋を示しています。①さくせんの概要に記載のとおり、さくせんを実践することにより、「たのしい」が好循環し、様々なつながりが生まれ、将来像の実現につながることを図で表現しています。

18ページから20ページにかけて、さくせんごとに区民・地域活動団体・区役所、それぞれの役割を提示し、そのイメージ図を新たに掲載予定です。

21ページからは、基本方針の説明になります。北区の特性・課題や、これまでの各施策の取組状況などから、区民と区役所と一緒に進めていくべき方向性をまとめ、基本方針として体系化し、新たに健康増進に関する項目を追加しています。

区民と区役所が前向きに関わっていけるように、本ビジョンでは「はっぴー・すまいる」と表現します。そして、基本方針ごとに現状、取組事例、今後求められていること、取組の方向性を掲載し、さくせんに沿った具体的な取組をイメージしやすいよう、4コマ漫画の挿入を予定しています。現在作成中ですが、イメージは今、前のスクリーンに映しておりますような形になっております。

それでは、次の21ページに進ませていただきます。

21ページでは、「はっぴー・すまいる」その1「チームでまもる地域の安全・安心の『わ』」について説明します。

現状と取組事例ですが、地域では、防犯カメラや防犯灯の設置、こどもの登下校時での見守り活動などの防犯活動が行われています。また、各校区の自主防災組織を中心として防災訓練を実施するなど、地域の実情に応じて工夫を凝らした防災に関する取組が行われています。区役所では、特殊詐欺被害防止に向けた啓発や取組、マンション防災講座などを実施しています。

22ページの今後求められていることとしましては、多様化し増加傾向にあります特殊詐欺被害対策、地域の防犯・防災の担い手の育成などについて記載しています。それらを踏まえまして、取組の方向性では、多様化する街頭犯罪や特殊詐欺被害などの防止、地区防災計画の策定支援、地域防災力を担う人材育成といったことについて、23ページにかけて記載しています。

なお、成果指標につきましては、後ほど4つの基本方針をまとめて説明させていただきます。

24ページをご参照ください。

「はっぴー・すまいる」その2「笑顔あふれる子育ての『わ』」について説明します。

現状と取組事例としまして、地域では子育てサークル、みんなの子育てひろばなどにおいて、就学前の子どもとその保護者、子育て支援者などによる様々な交流が行われています。また、区役所では、こどもの成長・発達段階に応じたきめ細やかな支援や地域の子育て支援サービスなどの情報や相互交流の機会などの提供、育児に関わる父親同士の仲間づくりのきっかけとなる交流会の開催などを行っています。

今後、求められることといたしましては、子育てがしやすい、住み続けたいと実感できるよう、子育て支援に関する取組の充実を始め、子育て支援活動を次の世代につなぐ取組、地域で子育て支援活動を行っているグループ同士の交流や担い手の育成支援、こどもが安心できる地域の居場所形成などを記載しています。

それらを踏まえまして、25ページの取組の方向性では、こどもが安全・安心に過ごすことのできる居場所づくり、地域で子育てに関する活動を行う団体同士の交流の促進や担い手の発掘、育成支援などについても記載しています。

27ページをご参照ください。

「はっぴー・すまいる」その3「いろんなコラボレーションでつくる・つながる魅力の『わ』」について説明します。

現状と取組事例としましては、地域では、祭りなどの地域特性を多くの方に知ってもらうための活動や、区

民の憩いの場である公園を利用した活動が行われています。区役所では、地域活動を活性化させる取組や北区の魅力の発信を行っています。

今後求められることとしては、多様な主体が連携した地域の魅力創出の促進や、幅広い世代に対する地域活動の参加促進があげられます。

それらを踏まえまして、28ページの取組の方向性では、民間事業者との協働やSNSなどの利用による北区ブランドの発信、区民の横のつながりや一体感、地域への愛着を高める取組について記載しています。

29ページをご参照ください。

「はっぴー・すまいる」その4「多様なコミュニティで呼びかけ合う健康増進の『わ』」について説明します。

次期ビジョンから新たに基本方針に追加予定の項目です。現状と取組事例としまして、地域では子育て世代や高齢者の通いの場での健康増進に関する活動が行われています。区役所では、生活習慣病予防の講座や、健康づくり、自主活動グループの活動支援などの健康増進の取組を行っています。

今後求められていることとしては、主要な死因である循環器疾患の予防の取組、ライフコースを考えた健康増進の取組、区民が気軽に健康増進に取り組める環境整備があげられます。

それらを踏まえまして、30ページの取組の方向性では、循環器疾患やフレイル予防、がん検診に関するライフコース別の啓発や健康講座、区民参加型の健康啓発、健康づくりに主体的に取り組むグループの活動への支援、総合的な介護予防の取組について記載しています。

なお、それぞれの4つの取組につきましては、より適切なタイミングで、また4つの基本方針を相互に関連させて相乗効果を生むよう工夫を図りながら実施し、取組内容や実施状況などを積極的に広く発信することによって、新たな「たのしい」につなげたいと考えています。

ここで、参考資料1（仮称）北区「はっぴー・すまいる」ビジョンの概要についての13ページをご参照ください。

それぞれの基本方針の成果指標をまとめたものになります。それぞれの基本方針において、現在実施している施策や取組の状況、社会情勢、今後求められていることなどを勘案し、継続的に成果指標の推移を把握する必要があるものについては残し、また、新たな指標の設定も行いました。

まずは、安全・安心に関する成果指標ですが、防犯に関する取組の充実の指標は、未達成であるため継続とし、防災に関する取組の充実の指標は、達成したためより低い数値を維持することを目標にしています。さらに、達成した防災に関する追加の指標としまして、定量的な指標である地区防災計画策定校区数を新たに設定しています。

次に、子育てに関する成果指標ですが、子育て支援に関する取組の充実の指標は、現状未達成のため継続します。情報発信を強化し、区役所内各課が連携して取組を推進することによって10年後に9割を超えることを目指し、5年後の時期ビジョンでは70%を目標値にしたいと思います。

また、子育てがしやすい都市と思う区民の割合も、未達成のため項目は継続しますが、目標値については、次期堺市基本計画の状況を見ながら今後設定したいと考えています。

次に、魅力の成果指標ですが、魅力や愛着に関する指標は、達成したためより高い数値を設定し、追加

の指標として定量的な指標である北区公式インスタグラムフォロワー数を設定したいと考えています。また、地域活動の参加率は、未達成であるため継続したいと思います。

最後に、健康に関する成果指標ですが、健康増進や健康意識に係る指標として2項目を設定し、それぞれこれまでの伸び率から目標値を設定しています。

資料1に戻りまして、31ページを御参照ください。

実施体制について説明します。実施体制図では、区民・地域活動団体・区役所がそれぞれの役割を踏まえて連携し、将来像を実現するイメージ図を掲載しています。

最後に、32ページの全体構成図では、みんなでさくせんを実践することにより、「たのしい」が好循環し、区民協働での地域共創の「わ」が広がり、将来像の実現につながることを図で表現しています。

次期ビジョン計画案につきまして、事務局からの説明は以上となります。

○加我座長 ありがとうございます。

では、ビジョン全体をとということになりますので、細かいところから大きなことまでということになるかと思います。参考資料1・2もうまく使っていただきまして、まず参考資料2のほうで全体の基本理念から基本方針までが一覧で見ることができるようになっていきますし、参考資料1のほうでは、最後のご説明いただきました成果指標が数値として確認できるようになってございます。

前の1ページ目からということをよくやりますが、どこからでも今日は構いませんので、それぞれの皆さんのご専門から、また生活一般からお気づきの点など、ご意見いただいて進めてまいりたいと思います。

大きくは、現状として区役所で取り組むことと地域でというようなことと、さらには個々人の方々が、またご近所の方々がであったり、趣味であったりある一つのテーマに基づいてみたいなことと集まっていっしょやるグループの方々のことも想定しながら、ということで、前回のビジョンからバージョンアップしてということで整理がなされています。

○伊藤構成員 ありがとうございます。大阪公立大学の伊藤嘉余子と申します。今期から初めてこちらの構成員に入らせていただいて、前回欠席しましたので今回第2回、初めて出席させていただきました。

ご説明ありがとうございました。質問ですけど、私は専門が、こども家庭福祉なのでそちらのほうを含めて、全体的に本当に様々な取組をなされてきて、今回また新ビジョンを立てていくということが分かったのですが、今の成果指標を説明していただいた参考資料の1のところ、例えば子育てについて、子育て支援に関する取組は様々されているのだと思いますが、現状で満足している区民の割合が47.4%で、目標は70%ということは分かったのですが、現状満足している人が半数に満たないといいますが47.4%、何に対してどのように不満なのか、いわゆる原因分析。47.4%は何で不満なのかという原因分析はどのようにされているのかということをお聞かせいただけたらと思います。原因が分からないと、何をどう直したら目標値7割に達するのかが見えにくいかなと思ったので、ほかの部分もそうですけど、要因分析されているところを教えてください。以上です。

○加我座長 事務局のほうで、まずこの47.4%は、参考資料1の後ろで資料編に多分アンケートの結果が載っているかと思いますが、そのどこの部分の47.4%で、区民の70%以上がというと非常に大きな目標でもあ

るような気がします。事実とどんなことが欠けているというふう要因を分析されてということなのかということで、ご説明をお願いしたいと思います。

- 事務局（鳴海企画係長） 現状47.4というところで50%に満たないというところですけども、あくまでも子育て支援に関する取組を全然怠ってきたかという、これまでの取組を見ても決してそうではないのかなとは感じております。

ただ、こういったアンケート調査を見て47.4という数字が出ていますので、子育て支援に関することだけではないと思うのですが、やはり区民の方に区役所がやってきていることというのがきちんとうまく浸透、伝え切れていないのではないかなという部分が一定あるのかなと感じている部分もあります。もちろん、これまでやってきた施策を見直すというところは今後やっていかなければならないと考えていますしやっていくのですが一定、発信、皆さんにどう伝えていくか、どのようにしたら皆さんに広く伝わっていくかという部分が足りてなかったのかなというところは考えております。

- 伊藤構成員 すみません、質問への答えになってないかなと思うので、そういうことではなくて、アンケートを取っているわけですね。アンケートを取ってこのパーセンテージなので、何に対しての不満。例えばメニューの内容なのか、子育て支援の施策はいろいろあるけれども開設時間が短いのではないかなとか、土日もやってほしいのかなとか、こういうメニューはあるけれどもこういうメニューはないのではないかなとか、内容に対する不満なのか何なのかみたい。もう少しそこが分析されてないと、ただ7割に上げたいといっても区民の人たちにとって何がもっとよくなってほしいと思っているのが、そういう声が拾えてるのか拾えてないのかということをお聞きしたかったです。

- 事務局（宮田子育て支援課長） 申し訳ございません。このアンケートに対しての部分は、具体的に残りの50%にどのような不満があるというのは拾い切れてない現状でございます。

- 伊藤構成員 それでは、そういう利用者さんの声を聞いて進めていったらいいのかなと思います。これは意見です。ありがとうございました。

- 加我座長 ありがとうございます。47.4、この数字はどこから出てきたのでしょうか。

- 事務局（鳴海企画係長） 区民アンケートからです。

- 加我座長 それは、ビジョンの中には載っていない。

- 事務局（鳴海企画係長） 54ページです。

- 加我座長 54ページですか。前回までアンケートの結果などを含めてご紹介をいただいたのですが。

- 事務局（鳴海企画係長） 54ページの下から2段目ですね。

- 加我座長 はい。子育て支援に関する取組の充実の、これ丸数字がついてないところですか。

- 事務局（鳴海企画係長） そうです。

- 加我座長 47.4%で、区としては、今まで子育てサークルの方々にお集まりいただいて公園の紹介や各種の取組の紹介等を実施してきたと。でも、そんな中のお声を聞きながらで、情報発信がということと足りないのではないかなということ。これ70%といったらかなりの数値の高い状況だと思いますが、この辺りは妥当性といえますか、大きく出たなという気はするのですが、いかがですか。

○鈴木区長 そうですね、大きく出ました。といいますのは、先ほど伊藤構成員からご指摘がありましたように、この不満は何なのかという話ですが、実際に、このアンケートに答えている方というのは、ほぼ来られて満足された方のアンケートになってしまっています。実際、何が不満だったのかというのを、先ほど課長から話がありましたけど分かっていない部分がありますので、そこは本当に反省すべき点であると思っています。

そのため、今我々は様々な活動をやっていますが、その活動というのは一つ一つの活動に参加される方が20名、30名という形になってしまいます。つまり、何千、何万うちの数十名しか子育ての支援を実感してないというのが実際でございます。そこで、先ほど担当が言いましたように、まずは今我々がやっていることを知ってもらうこと、本当に支援の必要な方に支援がわたるような活動をしていこう。そのためには、まずは啓発だろうということで、今説明を差し上げました。

確かに何が不満なのかというのは追及していかなければなりません、そこは我々反省としてこれからやっていきたいと思っています。

70%に関しましては、思い切って本当は100%にしたいところですが、子育てに関する支援に関しましては70%ぐらいまでに上げていきたいという思いもあり設定したところでございます。

○加我座長 ありがとうございます。反省も含めてということで、次に一歩進めたいというところでございます。

ほか、ございませんでしょうか。

○野田構成員 54ページの子育て支援に関する未就学児ありのほうは、先ほどおっしゃっていたように47.4%ということですがすぐ上、未就学児がない方も含めた全体ですかね。子育て支援に関する取組の充実は、かなり下がって22%ぐらいだと思うのですが、この差は何が原因と考えられるのかというのがすごく気になるなと思っています。

細かく見ていくと、57ページに未就学児がいる方の北区で感じている課題で、保育園などの施設の充実とが20.2%で赤に色がつけられており、その下の部分でもやはり子育て支援に関する取組の充実、保育園などの施設の充実で35%以上という形で突出しているのかと思うのですが、子育て中で、特に小さなおこさんがいるご家庭では保育園は結構激戦というのも聞きますし、そこはダイレクトに取り組んだら数字として反映ができる部分かと思います。この子育てで未就学児がいない、例えば小学生以上とか、中学生のこどもさんがいらっしやるとか、そういったところのご家庭に関しての子育て支援というのは、どういう形で区役所として関わって充実させていくのかというのを、今の時点でどのように考えられているのかということをお伺いしたいと思います。

もう一つ、成果指標の13、資料青色のほうの概要の資料で、急に地区防災計画策定校区数が出ていました。こちらでいう策定校区とはどのようなものなのかと。内容が全く分からないので、こちらも5校区あるのを10校区にされたい、倍にされたいという目標を掲げられているのですが、この策定校区というものがどのような内容で、どんな取組をして倍に目標を持っておられるのかということ、お伺いしたいと思います。

○加我座長 ありがとうございます。まず、子育ての未就学児がいるいないのほうについて、子育て支援の充実ということをどのように考えられているか。お考えをいただけたらと思います。

○事務局（宮田子育て支援課長） 構成員がおっしゃるとおり、就学前と就学後というところの支援の充実

度の違いというのは我々も感じております。これまでもいろんな会議の中でも、やはり就学後の子どもたちに対しての支援の部分がやはり就学前に比べると弱いというご意見もいただいております。

そういった中で、今期の取組の中で小学校1年生の対象でありますけども、わくわく教室というような形で子どもたちに集まっていただいて直接色々な体験をしていただく事業など、そういったものにも取り組んできている状況です。

やはり、就学後の子どもたちは日中、学校へ行っているという状況も踏まえながらどういった取組ができるのかということを考えていきたいと思っています。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。次に、地区防災計画についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局（曾根自治推進課長） 地区防災計画につきましては、災害時に平時から防災の取組を地域の人たちみんなで考えていこうという計画となっており、北区については、15校区自治連合協議会があるのですが、各校区1つずつ平時からの防災の取組、また発災時にどういった地域でどういった動きをするのかということを決めていくものとなっております。

この地区防災計画につきましては、平時から考えていくのでどういった行動をしていくかということ、丁寧に内容を決めていく必要がありますので、それが今できているのが5校区となっております。校区数につきましては、丁寧にやっていくということを踏まえ、広げていきますので5校区増えまして10校区に広げ、将来的には北区全体の15校区に地区防災計画が策定されることを目指していきたいと考えています。以上です。

○加我座長 これは、行政計画ではなくて校区の方々とともに議論をしながら、校区で住民同士のつながりを大切に自助・共助・公助といったことを設定するといいますか、何か有事が発生した場合にこんなふうにして動きましようということを決めるということですか。

○事務局（曾根自治推進課長） そうです。事前に決めておきましょうという計画となっております。

○加我座長 校区の方々のご協力といいますか、校区の方々がやりたい、やろうと思わなければなかなかできないものですか。

○事務局（曾根自治推進課長） そうですね。行政としては、そこをつくっていこうということで取り組んでいきたいと考えています。

○加我座長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ちなみに、どこから始まったのですか。

○事務局（曾根自治推進課長） 一番初めですか。

○加我座長 はい。

○事務局（曾根自治推進課長） そこは、ちょっと申し訳ありません。できている5校区につきましては、五箇荘校区と、新金岡、新金岡東、金岡、百舌鳥校区と策定をさせていただいております。

○加我座長 ありがとうございます。もしかしたら、皆さんのお住まいのところでもう既にできていたところだと思しますので、ご確認いただければと思います。

ほか、続いていかがでしょうか。

○紅谷構成員 兵庫県立大学、紅谷と申します。

防災に関して、地区防災計画は今、策定をということが全国でも言われておりますので、目標として設定するのもありかとは思いますが、ただ、形骸化（けいがいか）している、実効性がないということが言われておりますので、訓練であるなど、あるいはもっと常時でいいますとやはり地域のつながりが大事ですので、町内会の加入率とかそういうものがあっていいのかなとは思いました。

それから、あと全体的な話ですが「はっぴー」「たのしい」でつながるといのは、いい意味で行政らしくなくてとてもすばらしいなと思いました。

その一方で、区役所の業務としてやはり福祉、生活援護など、困っている方が相談に来られる、その対応というのも業務の主要なところで、生活を「たのしい」と感じられない、困っている、困難を抱えているような人も来られるのが区役所であると思います。そして、最初の趣旨のところでも、「区役所は様々な立場の人々の課題に真摯に向き合い、寄り添い」と書かれてありますので、16ページの「たのしい」とはどんなことでしょうかというところで、「たのしい」と思えないというか、感情ってすごく個人のところなので、「たのしい」という感情を押しつけるような感じになっているのもちょっと書き方は気を付けないといけないと思います。

「たのしい」と思えないような状況の方や困難を抱えている住民の方が、「たのしい」という気持ちを取り戻せるように区役所としてしっかりサポートしますというような、全ての人が「たのしい」という前提で書かれているというのは、少し防災の立場からすると違和感がありました。また、全ての住民、つらいことを抱えているような住民の方も、「あ、助けてもらえるんだ。」というように感じられるような表現を1行ぐらい何か入れていただけるといいと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○鈴木区長 紅谷先生、ありがとうございます。確かにそうかもしれません。本当にいろんな方がこれを見ますので、冒頭、私の挨拶でも言いましたけれども、市民の方がこれを見てどう思うかということが非常に重要だと思いましたが、今の本当に「たのしい」を前提に書かれているということは、確かにそうだと思いますので、少し表現を変えてみたいと思います。

○加我座長 セーフティーネットとしての行政の役割は、最近出てこないといいますが、ベースとしてやっているところだと思います。そういった視点で一度チェックをしていただいて、どこにうまく書き込みながら、場合によっては、私、公園関係を最近やっていますが、にぎやかであればいいということで、カフェ、カフェ、カフェみたいなことになっているという。本来、公園はセーフティーネットとしての基盤であるということだと思います。少しそういった目でもチェックをしていただいてということで書き加えていただければと思います。

続いて、いかがでしょうか。

○今野構成員 今野祐光と申します。感想といいますか、もっとこんなふうなのがあったらいいなという意味で、このビジョンの5、6、7、8ページに書かれている北区のマップや魅力に関してなんですけれども、私も北区に住んでいて、北区の魅力って何だろうなというふうに以前、区役所の方と話したときも、まず地域の公園、大泉緑地に行って小さい頃からよく遊んでいたなであったり、私、農業をしていますので、農園が意外と都市の中にあるという農空間のある地域であるということがまず感じられると思います。それ以外となると何かなと思ったときに、この5、6ページに様々な施設があると書かれていて、その7、8ページに魅力があったというよ

うに、意外と区民の方って北区に何があるか、しかもそこにある建物は一体どういう由来があるのかなど知らないのかなと思います。

そういった意味で、この北区の魅力、7、8ページのこういう写真をもっと入れてほしいなと感じました。ここに行ったらこういうものが見られるであったりとか、新たな魅力を発見できるであったりなど、そういった写真で見られると、ここに行ってみてちょっとこういうふうな写真を撮ってみようかな、インスタグラムにあげてみようかなであったり、歴史について学ぼうかなという方が増えるのかと思います。

今、現状のものよりももう少し写真など説明、視覚的にも分かりやすくしてもらえると、もう少し魅力というものが市民の方、区民の方に広がるのかなという感じがいたします。

○加我座長 ここからインスタグラムって続けていきますよね。「北区フォト」でしたか。

○事務局（本池企画総務課長） 「北区みんなで写真日記」です。

○加我座長 「北区みんなで写真日記」にもつなげていくということ、ビジュアルで本当にきれいな写真があるというのが一番だと思いますので、協力をしていただいてということで区民の方々を惹きつけていただければなと思います。

ほか、続いていかがでしょうか。どうぞ。

○小川構成員 小川です。少し気になったのが、北区の概要のところにも大阪公立大学中百舌鳥キャンパスと書いていますが、ほかは全部北区のことを書いている中で、公立大学だけ中区なので不思議に思いました。

○水野構成員 住所はね、一部北区に。

○伊藤構成員 本部の建物は中区にあるけれど。

○加我座長 いや、学園町、全部中区。これは、取った方がよいということですか。

○小川構成員 分からないです。中百舌鳥周辺だけならありかもですが、概要って書いていて、全部ほかは北区のことしか書いてないのに、ここだけいきなり出てくるのがすごい違和感を持ったという感じです。

21ページの「はっぴー・すまいる」方針のその1、現状と取組事例を取り上げていることという流れはいいと思ったのですが、それぞれがどこに現状、取組事例というのがぱっと見たときに、どこにどう書いているかというのがあまり伝わってこないなという感じがするので、どうしたらいいかと言われたら良く分からないのですが、全部同じフォント、同じ形にするとかではなくて、色を分けるとか、現状、取組事例、求められていること、方向性の色を分けて書くなど、もうちょっと見やすいたほうが分かりやすいのではないかなと思いました。

あと、もう1点。内容ではないのですが、17ページの一番下の3つつながっている図のところのさくせんBは誤字かなと思います。中身がAと全く一緒になっていますので。

○加我座長 そうですね。

○小川構成員 直さないといけないかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。

○事務局（本池企画総務課長） 今、インスタでも北区の魅力として北区だけを発信しているわけではなく、北区周辺の魅力も発信していますので、公立大学に関しましても北区に接するところにあり、北区の色々なイノベーションの発信拠点である中百舌鳥周辺とも関係が深いので、北区の魅力としてぜひここに載せて

いきたいと思っています。

- 加我座長 おそらく、公立大学は、公立大学としてというよりも中百舌鳥キャンパスのオープンスペースがって
いうこととということ、広域避難地も恐らくこの西側、まちの広域避難地にもなっているということだと思いま
す。それと、小川構成員も気がつかなかったですが、仁徳天皇陵古墳と大仙公園は、これは堺区ですよ。ね。
なので、どちらかという少し隣接している周辺の資源も含めて、北区の魅力に関わるものを載せているという
ことで理解をしていただくということ、北区の区境をもう少し明示をすればよいと思います。

毎日の生活の中でここから中区でここから北区でここから堺区とは、実は認識をしてなくて、ずっと移動の中
でまちを感じているということだと思いますので、少し周辺も入っているということは、私はどちらかといういいな
と思います。

しかし、中百舌鳥キャンパス、それから仁徳天皇陵古墳等は北区外で、北区に隣接しているということ。

あと少し、現状、取組事例、今後求められることということが分かりやすく表現してもらえたらと。

- 事務局（本池企画総務課長） 色付けなどをし、ご提案いただいたようにもう少し分かりやすい表現を考
えてみたいと思います。
- 加我座長 一方で、色をあまり多色にすると、さくせんその1、その2、その3、その4の色分けが分からなくな
ると思いますので、工夫がいると思います。あと、将来像については、ブラッシュアップも含めて気を付けていた
だければと思います。ほか、続いていかがでしょうか。

- 中田構成員 大阪公立大学、中田です。

先ほどあった子育ての話ですが、原因分析の点で、46ページに子育てがしづらい理由のアンケートがあるの
で、そちらで多少調べられているのかとは思いました。

さらに、17ページからのみんなで取り組む3つのさくせんのところですが、区民や地域活動団体などがさくせん
を実施するような感じだと思うのですが、それを実施してもらうためには知ってもらうということが大切だと思うの
で、どのようにみんなに知ってもらうようにするのかということが気になると思いました。以上です。

- 加我座長 ありがとうございます。知ってもらうということで、さくせんAにおけるそれぞれの役割等でやってきま
したが、これはもう徹底的に大阪メトロの駅降りたときも含めて、SNSや北区広報等を含めてやっていただく。
それが、その情報にアプローチしたい、アクセスしたい人だけでなく、あっ、そうなんだということが分かってもらえ
るようにということだと思います。

今までたくさんの媒体を使って情報発信をしていただいているかと思いますが、次への一歩、これを足してい
きますみたいなことを何かアイデアがあれば、区役所のほうからいただければと思います。

- 鈴木区長 子育て支援に関してですが、子どもたちと保護者の方との接点が必ずありますので、そのタッチポ
イントにお声がけをしていこうということを今考えております。例えば出生時の母子手帳を発行するとき、出産
してすぐの新生児の訪問、それから4か月児健診、この辺まで必ずお母さんと我々と接するところがあります
ので、そこに子育て支援のアピールをしていきたい。それを新しい取組として今後やっていきたいと思っていま
す。

そのほか、本当にインターネットでの取組というのは様々やっていますが、なかなか子育てのところはどういうふ

うに啓発したらいいのかというのでものすごく悩んでいるところですが、今後、アナログも含めて、皆さんに様々な意見をいただきまして取組していきたいと思しますので、またご意見をよろしくお願いします。

- 加我座長 都度、アイデアを待ってますということだと思いますので、まずは接点となる機会を通じてということをお忘れなく、生かしていった充実をさせていくということにも取り組まれるということです。

続いて、いかがでしょうか。

- 野田構成員 附属資料の45ページのアンケート結果について、自転車で走りやすいと思うという項目がありまして、2019年の45.8%から、2024年、5年間で若干下がって42.7%となっています。先ほどの地図の話などでもありましたが、区は自転車で意外と東区も白鷺あたりなどにも行けますし、堺区のほうも古墳や大仙公園のほうまで走っていくことが可能かと思えます。あと、大泉緑地に自転車で行くのかもよくしています。

ということ考えたときに、健康づくりのほうにも関わってくると思いますが、歩くだけではなく、北区内の魅力的なスポットや近隣の公園などの施設、そこに自転車で行ってもらえるような何か工夫っていうのも、サイクリングコース的に設けられてもいいのかと。それが回りまわって健康にもつながってくるかと思えます。

それプラス安全のほうですね。小学生には、学校で自転車の交通安全の乗り方教室などが地域でされていたりしますが、全国的にやはり高齢の方の自転車での事故はすごく増えていますし、高齢の方が倒れて頭をぶつけたらそれで大きなけがになったり、場合によっては命も危ないということなので、安全・安心の取組、振込詐欺の注意喚起などいろいろなことに力を入れてらっしゃいます。ここもやはり自転車での交通は、区役所でも今後、力を入れていただきたいと思えます。

そういったことで、力を入れていくことにより、自転車で走りやすい北区になっていくと思えますし、せっかくまち並みの美しさとか緑の豊かさに満足しているという数値は上がっているのも、やはり自転車でいろいろ行ってもらうことでそれをより実感してもらいますし、健康の増進とかほかのところにも波及していくと思うので、ここは今後、力を入れていただけたらなと、数値から感じました。以上です。

- 加我座長 ありがとうございます。健康ということでいきますと、移動手段で体を使いながらということがすごく大事だと思います。

これ、何で下がっているのでしょうか。自転車レーンもできていますが、もしかしたら歩道を走るよりも自転車レーンが怖いのかもかもしれません。しかし、歩道のほうはアップダウンがありますので、車道の自転車レーンをとということだと思います。土木部関係とも連携しながら充実化させていただければと思います。

これ、「SAKAI散走」は最近使わないですか。本庁に自転車利用促進部で、自転車利用を促進する上で「SAKAI散走」というのをずっと頑張らっしゃったと思うのですが。

- 事務局（市川北区役所部理事） 部理事、市川です。

今、先生がおっしゃった分ですが、サイクルシティ推進部と市民団体が協力して現在も続いています。

- 加我座長 それに合わせて、29ページ、30ページの健康増進で、確かに病気にならないように循環器疾患等で区民参加型の健康啓発といった取組はプラスで重要かと思えますが、それを支えているので、先ほどの自転車や歩くということで、ちょっと散歩したくなるということできると、北区は魅力があって、まちの緑であったり、歴史資源であったり、まち並みの美しさということだと思いますので、少し歩きやすいから歩いてみたくなる、

歩きたいと思えるようなまちへのようなこともどこかで入れてもいいと思います。自転車を使って体感でまちを移動することで健康につながりますといったことも、少しあってもいいと思います。治療よりも予防医学的なことも大事ですね。

続いていかがでしょうか。どうぞ。

- 辻構成員 五箇荘保育園の辻です。保育園において、地域子育て支援で園内でも園庭開放させていただいたり、職員が地域のサークルに出て子育て支援のお手伝いに行ったり、出生前の訪問も保健師さんと一緒にさせていただくなど、様々な子育て支援に関わらせていただいているので、冒頭のところから出てました子育て支援に関する取組の満足度が47.4%というところで関心がすごいです。

質問的にお答えは難しいかなと思いますが、先ほども出ていました付属資料の46ページのところで、北区の下のところですね。子育てがしづらい理由について各区の数値が出ていますが、北区のことではありませんが美原区だけがすごく子育て支援が充実していないからというのが8.1%ということで、他区はほとんどが30%前後というところで、かなりここが低くなっている美原区が子育て支援が充実しているということなののでしょうか。それ以上に、公園の整備やその前後のところが高くなっているのも、そちらのほうに関心があるということなのかもしれないのです。子育て支援をしている立場からしても、この8.1%と突出して少ないところは何か理由があるのかというところで、なかなか他区のところまでの分析はされていないのかと思いますが、何かこの理由などが分かれば少し生かしていけるところもあるのではないかと感じました。以上です。

- 加我座長 少し美原区の状況と比較しながらお話をいただければと思います。お分かりのところ構いませんが、いかがでしょうか。

- 事務局（宮田子育て支援課長） 子育て支援課の宮田です。

申し訳ございません。ちょっとその辺が把握できていないという状況で申し訳ございません。

- 辻構成員 いえいえ。先ほどの理由分析で冒頭お話があったような形で、ここも少し把握されるのも一つかなと思います。

- 事務局（宮田子育て支援課長） ありがとうございます。

- 加我座長 どうぞ。

- 鈴木区長 これ、本当に分析が難しいのですが、多分と私が言うのと駄目なのかもしれませんが、この調査は、子育て世代だけにしている調査ではありませんので、子育てしてない方々もこれに答えていますので、どうしてもそういう方が知らなければこのポイントは落ちてしまいます。

我々は子育てに力を入れていますので、やはりターゲットに絞って、我々がやりたいこと、皆さんが求めているものというのをもう少しマッチングさせないといけないと思っていますので、北区独自のアンケートを考えるなど、そういうのもひょっとしたら必要なかと思います。今後、そういうことも考えていかなければならない検討の一つだと感じています。

- 加我座長 ありがとうございます。続いて、どうぞ。お願いします。

- 伊藤構成員 大阪公立大学の伊藤です。

今の北区独自で何か調査をしたり当事者の声を聞いたりというところで、できればお願いしたいと思うのが、

子育て支援に関する内容はすごくあるのですが、子育て支援、「子育て」というか、子育てをしている保護者にとってどうなのかという施策であったり、そういったことは非常に丁寧にされていると思うのですが、子どもたち自身がそれをどう思っているのかなど、子どもたちが「はっぴー」になるにはみたいところですよ。

今、児童福祉、子ども家庭福祉もそうですし、子ども家庭福祉だけではなく、社会福祉全体で当事者参画など、当事者の声をどう反映させるかということがものすごく重視されています。私が参画しているほかのいろいろな自治体でも、子どもにアンケートを取るなど、子どもがどう思っているか、保護者がどう思っているか、結構ずれていたりして、それをどのように現場で、施策レベルでみんなにどの人にとっても住みやすいまちってどういうまちなのだろうということをみんなで考えていくということをだんだん進められてきてののかなと思います。ぜひ、この会議でも今、大学生が2人参加しています。子育て支援の子育てひろばはあるが、中高生の居場所はあるのかなど、小学生はどうなのかのような全世代型のいいまちづくりというのをぜひ意識して目標にしてもらえたらと思いました。以上です。

- 加我座長 ありがとうございます。成長中の子どもたちが一番大事だと思いますので、ぜひとも挑戦していただければと思います。コロナのときに、日頃〇〇モールしか行かない中高生がこぞって室内ではなく屋外ということで、大泉緑地に来た。ものすごくうれしく思ったのですが、実は中高生というのは、時間が忙しくてということもありますけども、行くところが、どこで過ごしてるのだろう、そのこたちのまちということが大事だと思いますので、ぜひともこれから調査していただければなと思います。

坂江構成員、いかがですか。

- 坂江構成員 大体気になっていたことは皆さんおっしゃってくださって、私はどちらかというと、新たな取組の進捗状況の資料2のほうの話で気になっているところがありますので、後でまとめてお話してもよろしいですか。

- 加我座長 ありがとうございます。では、増田構成員、いかがでしょうか。

- 増田構成員 今、おっしゃっていた資料2の新たな取組の進捗状況、私、質問しようかなと思っていました。今でよろしいですか。

- 加我座長 そうしたら、そのときでということ。水野さん、いかがですか。よろしいですか。

- 水野構成員 いいです。

- 加我座長 分かりました。では、ほかに資料1、北区「はっぴー・すまいる」ビジョンの改訂版について。

紅谷先生。

- 紅谷構成員 9ページの北区の特性の数字で、北区人口が最も多いので、項目番号、02、03、05の転入者数や出生数が多いのは、人口が多いとそれに影響されるので、05は出生数でもいいかなと思いますが、02、03は転出者の率で見ると一応いいのかと思いました。

それから、防災のところ23ページのところで、さっきも出た防災に関する取組の充実に不満を感じている区民の割合6.9%ですが、おそらく1%や2%は誤差の範囲なので、ここだけ6.9%未満は、0.1の桁はほぼ意味がないので、現状値を見るくらいで書くのがいいかと思いました。

その一つ前のページの今後求められていることで、防災に関してもたくさん書いていただいてありがとうございます。この中で、例えば4つ目のポツの防犯・防災に関する取組の充実というのは、一般的な内容なので、

わざわざ書かなくてもいいと思います。7のところ、いろいろな災害のことを細かく丁寧に書いていただいている、「過去の災害から得られた教訓を踏まえ」というところも細かく書いてはいただいているのですが、結局、備えをしましょうというだけなので、これもひよっとしたらなくてもいいかと。具体的に取り組む内容を書いたほうがいいと思いました。

それから「南海トラフ巨大地震」とありますが、これは厳密に言うと巨大のない「南海トラフ地震」のほうが一般的な使い方としてはいいと思いました。

その2つ下で、地震時指定避難所である中学校などで「など」で拾っていると思いますが、小学校が避難所ということが多いと思うので「小中学校」とするのがいいのかと思いました。

全体的なことで、北区はマンションが多いのも特徴だと思います。町内会での防災に取り組むのと、先程、町内会の加入率の話をしましたけど、町内会の加入率はあまりよくないかと思っています。地区防災計画をつくる時に、町内会ベースの自主防災組織だけではなくて、マンション組合などにも声をかけて一緒につくっている地区防災計画だったら、それはすごく意味があると思います。

一方、逆に、マンション組合が入ってくれないのであれば、組合を外すのは難しいかと思いますが、防災に積極的に取り組んでいるマンション管理組合の数など、そういうのも北区にとってはいい指標になるかもしれないと思いました。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。人口のところについては少しご検討いただいて、北区の特性が分かるようにということで進ませていただけたらと思います。

防災に関しても、確認やチェックをしていただいて、本当にご指摘いただいたように、特にマンション防災ですね。昨期までは北花田の羽根さんが来られていて、管理組合ごとのマンション防災の重要性、マンションでの自助・共助を高めていくということが非常に話題になっていたかと思います。少し、今後求められるところについても、上の「マンションなど共同住宅における災害の備え」というのはありますけども、もう一度ご検討いただければと思います。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょう。

○小川構成員 小川です。先ほど、7、8ページの写真がInstagramから掲載したということで、区民の写真を使っているというのはいいなと思いました。おそらく、Instagramなのでスマホで撮っていると思いますので、ここにあげてしまうと、解像度が落ちてしまいせっかくの魅力が伝わりにくいかと思います。どちらがいいか分かりませんが、私はできたら魅力を伝えるならきれいな解像度の高いものの方がいいと思いました。

9ページの04のところの「15」は全角かなという気がしたので、全角、半角が合っていないと気持ち悪いなと思ってしまったので、細かいところですが私はそこだけです。

○加我座長 ありがとうございます。書式の統一、写真は確かに解像度が印刷物でというときに少しぼやけているよりもシャープなほうがいいと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、まだまだお気づきの点等ありましたら区役所のほうにご連絡いただきながら、次回以降、もう一度審議のほうを進めてまいりたいと思います。

それでは、次の令和7年度の新たな取組の進捗状況についてご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

- 事務局（佐藤） 続きまして、資料2、令和7年度の新たな取組の進捗状況についてお話しさせていただきます。皆さん、資料2をご参照ください。

前回の会議で説明しました取組について、進捗状況を報告します。

まずは、魅力発信に関する取組のドローンを活用した北区の魅力発信です。前回の会議において、ドローンを撮影できる参加者が限定されるため区民参加型が望ましいのではとご意見をいただきました。事業所管課のほうで検討しましたところ、ドローン撮影のコンテストと体験会を同時に開催することが、ドローン撮影の特殊性及びコンテストの公平性の観点から難しかったため、魅力をPRする動画の制作と魅力発信者を養成する講座として、ドローンの操作、撮影体験会に分けて実施することとしました。

既に魅力をPRする動画の撮影については、今野構成員にご協力をいただき、今野農園さん、のびやか健康館で撮影を実施しております。今後は、大泉緑地、ニサンザイ古墳の隣接する御陵山公園、百舌鳥八幡宮での撮影に向けて、現在調整中です。

また、魅力発信者を養成する講座としてのドローンの操作、撮影体験会につきましては、来年の3月頃に大泉緑地の野球場での開催を調整中です。

続きまして、北区InstagramQRコードを掲載したポップやステッカーにつきまして、こちらのポップやステッカーについては、イオンモール堺北花田店や中百舌鳥駅前通商店街の各店舗、区内の飲食店などにご協力いただき、掲示中です。新たな掲示場所として、北区Instagramで紹介した店舗などへ依頼を検討中です。

なお、当該ポップ、ステッカーに掲載されているキャラクターの「キタクマ」は、契約上、デザインの加工はできないものとなっております。

続きまして、子育てに関する取組としまして、北区オリジナルダンスの創作について説明します。

「たのしいでつながる」や早寝早起きといった「生活習慣改善」などをメインテーマとし、親しみやすく明るくテンポのいい曲調で楽曲制作中です。初お披露目に関しましては、11月1日に金岡公園野球場で開催の北区交流まつりを予定しております。また、12月14日イオンモール堺北花田で開催の北区子育てフェスタでもダンスショーを予定しております。

ここで、1番のみになりますが曲を流させていただきますので、構成員の皆さん、ぜひお聞きください。

（曲披露）

- 事務局（佐藤） いかがでしたか。ちょっと途中で切れてしまったのでもっと聞きたいと思われた方、いらっしゃるかと思うのですが、1番を聞くだけでも明るく楽しい曲調で皆さんに口ずさんでいただけるようになればいいと思っております。

また、全部の曲に関しましては、先ほど申しました北区交流まつりや子育てフェスタのほうで披露させていただきますので、こちらのほうにも皆さん、見に来ていただいご参加していただけたらと。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、防災に関する取組である「みんなで防災」ホームページのQRコードを掲載したポップやス

テッカーにつきましては、イオンモール堺北花田やウェルシア薬局、中百舌鳥駅前通商店街などにご協力をいただき掲示中です。

加えまして、防災グッズを扱う店舗での掲示や、北区内の郵便局のポストへの貼り付けを検討しています。これから皆さんが目にしていただく機会もますます増えるかと思しますので、あ、見つけたなどと楽しんでいただけたらいいなと思っております。

令和7年度の実施の進捗状況につきまして、事務局からの説明は以上となります。

○加我座長 ありがとうございます。

それでは、令和7年度の実施の進捗状況について、ご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

どうぞ。

○坂江構成員 坂江でございます。

まず、ドローンを活用した魅力の発信ということで、業者による空撮映像を用いた魅力の動画の発信というのはやはりスケール感のある映像が撮れて、クオリティーの高い動画が期待できていい取組だと思います。大事なのが、発信方法になってくると思っています。王道ということでは、YouTubeになりますが、もう今の時代3分、5分の映像でも最後まで見てもらうというのは本当に大変なことになっていて、ショート動画のほうでの発信を強化していったらどうかと思いました。

数秒で、「あ、きれいな」「いいな」と思えるようなインパクトを与える15秒とか30秒など、それ以下ぐらいの動画をたくさんつくって、単なる美しい風景を紹介するというふうにはならないように、北区で暮らす人々の様子とか、こういう文化があるよ、こういう歴史があるよというのが伝わるような短い動画をたくさんつくって、その最後に「こんな北区のお祭りが分かる情報のリンクはこちら」みたいな感じで貼っておく。「こんなおいしいご飯がたくさんみられるInstagramはこちら」っていうふうには、とにかくその次に何をしてほしいかというのを1個1個誘導していくというのが大事なんじゃないかと思っております。

PR動画は、いい映像ができたなってそれだけで終わってしまうと本当にもったいないので。それをつくって誰に届いたのか、どのプラットフォームでどういうふうに視聴されたのかというデータを集めていって効果を図っていくということが、それがセットで不可欠だと思います。せっかくInstagramもたくさんフォロワーがいるので、Instagramストーリー機能なども活用し、ぜひぜひせっかくドローンで動画撮るのであれば、本当にいろんなところで展開していくことができたらいいと思っております。

その次のドローン操作、撮影体験会について、私は、これは本当にすてきな発想だなと思っております。来年3月、大泉緑地の野球場をということで、そちらから推測すると、多分ドローンの操作面、技術面をメインにした講座になっているのではないかなと思っております。ドローンで撮影した動画を撮るだけでなく世の中に発信するというようになってきますと、技術と合わせて何を撮るべきではないのかという発信倫理のほうの問題と、それから何を撮ったら見てもらえるのかというコンテンツ力、企画力というその2つも一緒に扱ったらどうかと考えます。

せっかく撮影していても倫理観に問題があったらトラブルの種にもなりかねませんし、魅力を発信する企画力がなかったら、せっかく撮って発信したけれども誰も見てくれないということにもなりかねませんので、発信倫理

講座みたいなのとコンテンツ企画講座みたいなのをセットにして連続講座にしていくというのはどうかと思いました。

技術講座のほうでは、ドローンの操作方法や機材管理であるなど、実際の技術、倫理講座のほうでは、ドローンの法規制の理解、肖像権、地域住民の配慮、撮影許可の取り方など、あとはウェブ上にある素材の扱い方、コンテンツの企画講座のほうでは、地域の魅力をどう切り取っていくか、ストーリー構成、演出の工夫など。例えば、季節ごとの変化を長期的に追っていく、映像だけではなくて太鼓の音、季節の鳥の声、そのような聴覚のほうも大事にするなど、このまちがいいなと思ってくれるような、このまちで暮らしたい、訪れてみたいというのが伝わるような物語性みたいな、そういう見せ方の講座ですね。

せっかく善意とやる気で撮ったドローンの動画がトラブルになると本当に悲しいので、連続講座にして倫理とかコンテンツなどをまとめてセットにすることでそういうトラブルも防げていくのではないかと思います。

こうなればいいなみたいな話ですが、連続講座にすることで、受講者同士のコミュニティみたいなものが出てこないかなという期待がちょっとあります。私はこういうことをしているんですよ、私はこういうものをつくりたいんですよというような情報交換が生まれて、そのドローンや発信に興味がある人たちのコミュニティができれば、まさに「たのしい」でつながるといふそういう事業のモデルケースにもなり得るんじゃないかなと思いました。

魅力発信者養成講座ということなので、別にドローンだけではなくて普通の写真でもいいわけです。カメラマンの方が教えるカメラの技術、肖像権の講座、SNSの写真アカウントの運営講座など、広げていけるのではないかなという可能性をこの企画に感じております。

インスタの展開では飲食店などでのポップやステッカーの展開について、なかなか以前の会議でも話題に出ましたけれど、インセンティブがないとなかなか人間は動かないよねという話をしておりました。もしそれでも、どこかでこのステッカー見たことあるなという接触機会をどんどん増やしていくことというのは重要だと思いますので、もちろん飲食店もいいと思うし、どこにでもあるポスト。それに加えて、できれば公共交通機関にも協力を仰いで、いや応なく目に入る、通勤するから毎日乗らざるを得ないバスとか電車とか、そういうところでも協力していけたらいいのかなと思いました。

次のオリジナルダンスについて、もしできればなんですけれども、幼稚園ですとか保育園さんのほうで、一定期間でいいので一日のルーティンのどこかにこの歌、ダンスを組み込んでくれないかという働きかけをしていくと、かなりそれは意味があることになると思います。ダンスと振りつけの解説の動画をつくって、それだけではなくて、何で早寝早起きが発達に大事なのかとか、そういう意味を説明したリーフレットみたいなのもつくって一緒に園とかに配布するなど。それから、保護者の方や先生が何の意味があるのかと分かるような状態にしておくなど、あとは、SNSで参加型キャンペーンみたいなことができないかなと思いました。例えば、「#北区オリジナルダンスチャレンジ」みたいなタグをつけて動画を投稿してもらいたい。子どもたちが踊る様子の動画を投稿してもらおう。あるいは、団体部門みたいな感じで何らかの団体サークルみたいな形で投稿してもらおう。そういう参加型のSNSのキャンペーンとかコンテストとか、そういうことができれば拡散力も上がるし定着力が上がっていくんじゃないかなということをおもいました。

なかなかコンテストで豪華賞品とかは難しいとは思いますが、例えば優勝したら北花田のイオンの特設ステ

ージではみがきうさぎと一緒に踊れますとか、何かそういう体験型の賞品とかあると、親も「楽しみやね」と、子どもも「あそこで踊ってみたいな」とか、そういう親子双方の関心を高めることができるのではないかなと思いました。

最後の防災に関する取組ですが、防災グッズを取り扱う店舗への掲示などは、積極的に進めるべきだと思っております。先ほどのInstagramの話と関連するのですが、Instagramとみんなで防災ページのつながりをもっと強化したらどうかと思いました。北区のInstagram、フォロワーが3,800人ぐらいで、「北区みんなで写真日記」がすごく活発で、美しい風景の写真とかお祭りの写真とか、おいしいご飯の写真とか、それぞれの中心のすごいきれいなページなんです。割と日本のInstagramユーザーってライフハックとか豆知識とか、結構文字情報が入っている投稿をよく見ているような印象が私の中ではあります。

例えば、北区のInstagramで10秒防災クイズ、「1人が1日生活するのに必要な飲料水は何リットルでしょう」のようなクイズを出して、2ページ目に「答えと詳しい解説はこちら」と防災のページに飛ぶようにしておくなど。そのような誘導する取組を定期的に行っていくことで、「あ、こんな防災のページあったんだ。」そういうのが訪れてくれる人が増えるんじゃないかなと思いました。

なので、ぱっと見てきれいな写真をInstagramに投稿するというにはあまりこだわらず、文字情報が多かったとしても1回の投稿に情報が入っているものも出していったらいいのではないかなと思いました。クイズだけではなくて、例えばInstagramの1枚目に「災害の備蓄、何だか難しそう。でも、こうすれば簡単」みたいなを出しておいて、2枚目に「今日のお買物で缶詰を多めに買うだけでも備蓄になりますよ。詳しくはこちら」みたいな感じでリンクを貼っておくとか。とにかく入り口のハードルを下げた下げて、いろんなところに出していくということにInstagramを生かしていけないかと思っております。

あとは、ちょっとした地震とか大雨とかあるものなので、そういうのでリアルに連動した投稿もできたらいいのではないかなと思いました。「昨日の大雨、ちょっと怖かったよね。改めて自宅の備蓄確認してみよう」とかそういう感じで今思っているかなという人がいるタイミングでの広報がInstagramではできるんじゃないかなと思っておりますので、そういう方向も考えてみたらいいかがでしょうか。すみません、話が長くて。ありがとうございます。

○加我座長 ありがとうございます。多岐にわたり、すぐちょっとしたことでできるようなことでアイデアをいただいたと思いますので、ぜひとも挑戦といえますか、取り組んでいただければなというふうに思います。

確かに、北区のオリジナルダンス、幼稚園や保育園でダンスは何か踊ってますよね。

○辻構成員 いいですか。

○加我座長 どうぞ。

○辻構成員 今おっしゃっていただいたので。今、坂江構成員からおっしゃっていただいて、一つはダンスの前にステッカーもぜひ保育園、こども園でもいただけると、結構ポップで子どもたちも目につきやすいし、そこからもちろん登録は保護者の方だと思うのですが、一つたくさんこども園の施設、保育園ありますので、いただくと活用できるのかと思いました。

ダンスですけれども、興味本位もあってなんですけど、ダンスのタイトルが決まっていたら教えてほしいと思います。一つは、今後子育てフェスタなどでショーをされるということは決まっていると思います。それ以降、多分この

フェスタだけで終わりという形ではないと思うので今度、それ以降のように北区としてここを活用されていくビジョンをもっているのかというのを伺いできればと思っています。

やはりこども園、保育園でも各施設に先ほどおっしゃっていただいたように、CDだったり映像だったりをしていただいても、なかなかこれから先どういうふうになら北区で使われていくのかということが分からないと、なかなか園としても取り組んでみようかという園さんもあれば、単発で送られてくるだけだとほかの活動なんかで忙しいとスルーされていくことがあると思います。でも、すごくいい取組だなと思っています。北区で育て大きくなったときに、私は出身が他市なのであまり育ったところで、ここで育て小さいときにこういう体操があったよね、ダンスがあったよね、みたいな思い出というのはあまりないのですが、堺市にそういう体操があったり、北区で育ったら小さいときにこういうダンスをしてきたよねというのが、やっぱり北区のこどもたちの中にそれぞれの園で取り組んでいる取組だけではなくて、本当にみんなこどもたちの中で広まっていくようになればいいなと思っています。

それと、先ほども小学校の就学後の子育て施策は弱いというお話もされていましたが、保育園、こども園、幼稚園を卒園して次小学校に入ったときに、その段差がすごく大きいので、今、国のほうでもそのつなぎのところのかけ橋期のプログラムというのがすごく大事にされていて、堺市のほうでも教育委員会と一緒に5歳児と1年生のところのかけ橋の段差をどうつなげていくかというかけ橋期のプログラムをつくっている会議に、私、そちらのほうも今年ちょっと代表で団体から参加をさせていただいています。そのときに、すごく生活環境や活動が変わるので、その委員の中でも少し出ているお話の中では、幼稚園、保育園、こども園の幼児期に取り組んでいた簡単な歌だったり踊りとかを、小学校に入ったときにも最初同じものができれば、こどもたちもやっぱりやってきた、知っている、できるということをまずやるということで、新しい環境に入っていくのにすごく自信につながったり安心感につながります。ぜひ、そういう形で幼児期だけではなく、小学校に入ったときにも、幼児期にやっていたこのダンスの活動が1年生の取っかかりのときには小学校のほうでもやっていただけるというような形として北区全域でつながっていけばいいなと思います。

北区は、他区に比べて先行して園と小学校さんとの交流というのをかなり密にやっているのでも、ぜひ区から発信していただければ、そういう取組も広がっていくのではないかと思いますので、その辺り、先のビジョンなんかも教えていただけたらと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。オリジナルダンスの中長期の展望はいかがですか。

○事務局（本池企画総務課長） 中長期というほどでもないのですが、このたび、せっかくダンスをつくるので、もちろん交流まつりや子育てフェスタでも披露するのですが、そこだけではなくて、また幼児だけではなく、高齢者の方など、そういったところへも広げていきたいという思いはあります。さらに、高校生とか。先ほど坂江構成員に言っていたコンテストのようなものも面白いと思っています。いろいろな世代から、もしそういう投稿があれば、それをつなげた動画などもできるのではないかと思います。

来年度以降、幼児だけでなく、世代も広く対象として広げていきたいという思いがございます。

○加我座長 よろしくお願ひしたいと思っています。

ほか、続いて。どうぞ。

○野田構成員 私もダンスのことになりますが、まず、はみがきうさぎについて、先月にちょうど末っ子が3歳児健

診で区役所保健センターに行きまして、そのときに虫歯などのチェックをしていただいたときに、はみがきうさぎの歯磨きしたらシールを貼るシールラリーの用紙をいただいてきて、非常に喜んで、夜、歯磨きして今シールを貼っています。こういうことは、本当に親としても喜ばしいし、こどもも楽しく取り組めるので、ぜひ今後もやってほしいと思っています。

ダンスですが、私の次男が幼稚園のときに松原市出身のシンガーソングライターの方が新しい曲を出すということで、プロモーションビデオ、ミュージックビデオを幼稚園で撮らせてほしいということがありました。顔が映っても問題ないこどもだけで参加者募集しますということで、園の終わった後の時間に、園の中で簡単な振り付けをしたり工作しているところなどを撮って、それがYouTubeにアップされたら、親としてはどこでどんなふうに出ているのかと思って楽しみに見たり、祖父母に「これに出ているよ」って教えたりして、10回か20回ぐらいうちが再生したなという感じですごく喜んで見させてもらったんですね。

なので、オリジナルダンスもゆくゆくは小学校のさかいつ体操みたいな形で、幼稚園、保育園のこどもが運動会などの準備体操のようにダンスを踊ってくれたらいいのかと思っていました。このダンスがもっと広まるよということだと考えると、実際に幼稚園を訪れてYouTube等でお子さんが踊っているところを撮って、それがつながって動画になっていたり、先ほど曲の1曲目、1番だけ流していただきましたが、お姉さんが上手に歌っているなというよりは、できたらもうサビのそこはこどもたちがわーっと、多少音程が外れていようが元気に歌っているほうがすごい親しみも持てるし、北区の「たのしい」でつながるといふ部分にすぐリンクしてくると思います。周知の時点ではちょっと難しくても、ゆくゆくそんな感じでみんなが元気にダンスしているようなところ、歌っているようなところを何らかの形で区民の皆さんに見ていただけるような取組をしてもらえたらいいかと思いました。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

続いてで、増田構成員、いかがですか。

○増田構成員 基本方針の程度といえますか、今の段階ではこの程度の表現になるのかなと思うのですが、先ほどドローンのお話が出ていましたけども、ドローンのあとの発展というところでは、28ページにあります北区ブランドの発信のここに該当してくるのかなとは思っています。何か基本方針全体が、これ、今の段階の資料ならこういう表現になるのか、もう少し具体的な表現が出てくるのかどうか、その辺はどんなふうにお考えなのかというのが一つあります。

例えば18ページで申し上げましたら、北区ブランドの発信の3-1-1なんかは、先ほどドローンのところとつながってくると思うのですが、具体的にどんな取組をしていくのかという项目的なことの表現もこれから入ってくるのか入ってこないのか。このまま公表されてしまうのかどうかということがちょっと、見ていて感じました。

もう1点は、地域防災の話が前段出ていたと思いますが、戸建て住宅でも町内会に入っていないというところが結構今増えてきています。こうなりますと、金岡校区で毎年自主防災訓練をやっていますが、対象者は町内会の会員名簿に基づいて安否確認などはやっていますが、戸建て住宅の拒否、マンションなどでしたら3階建て住宅であれば、オートロックがかかっているというところがだんだん増えてきています。最初から対面できないという問題が今発生してきていて、どんどんこれから増えていくのではないかという危惧があります。

それからもう1点、同じ28ページの地域活動に参加している区民の割合23%。これ、目標は一応30%という設定をされていますが、これは今申し上げたような情勢も踏まえたらかなり高い数字ではないかなと思います。

町内会だけでなく老人会、子ども会も私の地域では3つほども解散しています。ということは、子どもたちは集団登校できない。もう個別に学校へ行っているということで安全面でもかなり心配される状態にきてるのではないかと思います。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。基本方針の取組の方向性の書きぶりということについては、今後どのようにお考えですかね。

○事務局（本池企画総務課長） 個別の事業を具体的に書くという形ではなくて、大きな方向性をこの方針では表し、それに基づいて、具体的な施策を各課なり区役所が実施していくことを考えておりますので、このページに具体的なドローンであるなど、今後やろうとしていることを書く予定はしていません。

○加我座長 これをした時期に、今日の令和7年度の取組の進捗状況がその方針と合致しているかどうかということを検討しながら、また実施をしていく。今日いただいたように、ブラッシュアップしていくといいますが、新たなアイデアを加味していつ実施をしていくということになろうかと思います。

もう一つが、地域活動に参加している区民の割合、これは本当におっしゃっていただいたようにどんどん低下していくでしょう。これを上げていくのは非常に難しいことだと思います。でも一方で、北区は清潔で便利なんです。自助・共助・公助ということでいきますと、ある一定、生活に困っている方々も大事ですよというお話がありました。そうした方々へのケアということでいきますと、地域活動もしくは区の働きというのが大事になろうかと思います。

自助で生活ができるという方々も多いというのが現状で、清潔で便利なまちだから、清潔で便利なまちになればなるほどということであると、もう一度自助だけでなく共助もということ、どうみんなに大事さを、有事のときには気づいてくれるんですがということだと思います。

一方で、安全・安心のためにということで、個々の住宅で、場合によってはマンションがオートロックでということも多く続いていくかと思いますので、前回の期でも議論がありましたマンションでの共同住宅における災害の備えみたいなことをどうしていくのかということもアピールポイントとして重要になってくるのかなと思います。

ほか、続けていかがでしょうか。よろしいでしょうか。

新たな取組の進捗状況については、個々が連携するように、個々でちょっとしたつながりでうまくいくのではないかと、個々のアイデアをいただいたかと思えます。大いに参考にさせていただいて取り組んでいただければと思います。

それでは、本日いただいていた議題は以上でございますので、ここで終えたいと思います。あと、「はっぴー・すまいる」ビジョンについては、個々いただいた意見を参考にブラッシュアップをしていただければと思います。

それでは、この後の事務連絡等を事務局に進行をお返しします。

○事務局（鳴海企画係長） 構成員の皆様、本日はありがとうございました。本日いただきましたご意見を参考に、計画案について再度見直しを行いたいと思います。また、現ビジョンに掲げる将来像「いろんな『た

のしい』でつながるまち 北区」の実現に向けた取組も引き続き進めてまいります。

今後のスケジュールについては参考資料3につけさせていただいていますが、1月に意見募集を行いまして、その内容を踏まえて3月に策定の予定です。次回は、今回のご意見を反映し、意見募集で提示します次期ビジョン計画案についてご意見をいただきたいと考えています。次回は12月25日の開催を予定していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(午後 4時54分 閉会)